

読書の秋、読書週間

秋もだんだん深まってきました。朝晩かなり冷え込むようになり、昼間との気温差が大きいので、体調を崩さないようにしていきたいと思えます。

さて、10月27日～11月9日は第74回全国読書週間です。第1回は昭和22年。戦火の傷跡がまだあちこちに残る中、「読書の力によって平和な文化国家をつくろう」という決意で創設されたそうです。食べる物にも事欠く時代に、読書をする事の大切さを訴えたのですから、その頃の人がいかに読書を重要視していたかが分かります。



本校でも、11月は「萬歳小学校読書月間」と名付けて読書に力を入れていきます。「うち読（家読）」の取組や「先生方による読み聞かせ」、「読書ビンゴ（読書の幅を広げるため、各学級に色々なジャンルの本を置いて、読んでもらう）」、「おススメの本紹介カードづくり」、「読書集会」など色々な企画を予定しています。

読書の一番の効用は「読書の楽しみ」だと思います。本を読むことによって楽しい時間を過ごすことができるということが、まず第一ではないでしょうか。

次に、自分の持っている言葉の数が増えるということです。言葉の数が増えることによって、考えたり、思ったりしたことを表現する幅が広がることにつながります。

さらに、読書によって考える力がつきます。新しい知識を得たり、それを自分の生活に結びつけたり、自分の考えを整理したりすることで、考える力がどんどんついていきます。

その他にも、自分が経験できない世界を知ることができたり、文章からイメージを広げ想像力を高めたりするなど、読書の効用はたくさんあります。

読書を楽しむ子どもたちが、少しでも増えることを願っています。

※各写真は、10/20に行われた「読み聞かせ」のボランティアの方々

発行：新見市立萬歳小学校

